



<http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

大図研京都地域グループ忘年会

終了しました

下記の日時で、大図研京都地域グループ忘年会を開催しました。非会員の方も含めた合計 12 名で楽しく情報交換をし、盛会となりました。

日 時 : 2019 年 12 月 19 日 (木) 19:30-22:00

会 場 : 韓杯房プルダ 京都駅南店

参加者数 : 12 名

[目 次]

大図研京都地域グループ忘年会 終了しました	…	1
小特集：大図研京都ワンディセミナー	…	2
「メディアドクター研究会 in 京都 : iPS 細胞と臨床試験」参加報告	…	2
大図研京都ワンディセミナー「メディアドクター研究会 in 京都 : iPS 細胞と臨床試験」参加記	川野 眞樹	… 2
大図研京都ワンディセミナー「メディアドクター研究会 in 京都 テーマ : iPS 細胞と臨床試験」参加報告	前田 貴代	… 3
会員名簿情報ご確認のお願い	…	6
会費ご納入のお願い	…	6

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール : kyoto@daitoken.com (大学図書館問題研究会京都支部)

URL : <http://www.daitoken.com/kyoto/index.htm>

大図研京都ワンディセミナー 「メディアドクター研究会 in 京都 :iPS 細胞と臨床試験」参加記

川野 眞樹

2019年10月27日、京都府立図書館2階ナレッジベースで大図研京都ワンディセミナー「メディアドクター研究会 in 京都 テーマ:iPS 細胞と臨床試験」が開催されました。メディアドクター研究会とは、医療に関するメディア報道のあり方を勉強する会です。今まで関東で定例会を開催されていましたが、京都で開催されるということで以前から興味があったメディアドクター研究会のセミナーに参加しました。大学図書館問題研究会について何も知らないのですが、参加した個人として、今回のセミナーについて報告します。

メディアドクター研究会のセミナーは参加者による自己紹介から始めているようで、今回のセミナーも参加者の自己紹介から始まりました。参加人数は30名弱、iPS研究所の方や報道関係者などの参加もあり、図書館関係者以外の参加が全体の2/3を占めていたとのことでした。

「Googleと医療情報」では、Googleの特徴や検索オプションの使い方、Chromeとの違いや、Yahooは独自エンジンから2011年にはGoogleの検索エンジンに移行したが、Yahoo独自コンテンツでの探し方もあるなど、検索エンジンの特徴を説明しながら医療情報をインターネットで検索する時に知っていると便利なツールやコツをわかりやすく説明されました。

「医療健康報道を「評価」して情報の質を高める」の後は、iPS細胞についての新聞記事を2種類、「メディアドクター指標」をもとに読み解き、5グループに分かれディスカッションを行いました。

「メディアドクター指標」は医療・健康報道の質を高めることを重視して作成されているそうです。指標には10項目があり、適切な医療行為を受ける際の意味決定において情報源に成りうる医療記事に対し、必要な要素を明確にし、記事提供側の視点と読者側の視点で参考になるポイントを提供して、記事の優劣をつけるのではなく、「満足」と判断される項目の数や割合によって、評価を行う指標だそうです。

私が参加したグループでは、記事を「メディアドクター指標」の記載順に沿ってディスカッションせず、気になる指標から記事についてディスカッションをするスタイルでした。グループごとのディスカッションの後は「医療記事の作られ方」を聞き、その後、グループごとの発表になりました。

「医療記事の作られ方」では、1990年代にEBM(Evidence Based Medicine)の考えが広まったことや、インターネットの普及でEBMの情報源(論文や臨床研究)に誰もがアクセスしやすくなった反面、評価する知識が必要になったと発表されました。そして、医療を取材する記者にとって情報源であるプレスリリースの質によって記事の質も変わると発表されていました。

今回、医療者や報道関係者も参加されていたため、ディスカッションやグループごとの発表では報道する側からの意見として、新聞社の事情、研究を発表する側からの意見もあり、医療記事が発表されるまでの関係者たちの関わり合いを知ることができました。特に再生医療に関しては、研究関係者や学会関係者内での発表で終了していたものが、一般での期待度が高いこともあって新聞やテレビなどのメディアに発表することにしたなど、従来の医療情報の発表とは扱いが違うところがあるとのことでした。また、報道では紙面発表では字数制限があるのに対し、ネットニュースでは文数制限がないことや、其々の新聞の読者層の違いによって記事の扱いに違いがあるなど、メディアの違いで報道内容やボリュームが変わる

といった意見もありました。その他に、治験については一般に正しく理解されている言葉なのか？治験＝標準治療ではなく、治療方法の安全性の確認にあることが理解されているのか？といったことが議論になりました。また、治験という言葉について、新聞では使われているが、テレビでは使わないようにしていることなどの意見が出たこともあり、最後に、渡邊清高先生が、治験やガイドラインについての解説をつけて、セミナーのまとめをされました。

終了後、京都府立図書館から移動して三条木屋町のイタリアンで懇親会がありました。セミナーが終了しても懇親会での話題は医療報道が中心でした。私がいたテーブルでも話題は、やはり医療関係で、NHKで放映された尊厳死の番組のことが話題になりました。初めて会った人たちと普段話題にしないことで話し合うという新鮮で楽しい時間を過ごすことができました。

今回のセミナーは病院で働いていると患者さんからの質問や、話題に対して役立つ内容が多く、とても勉強になりました。このようなセミナーの企画をされた大図研の皆様に改めて感謝申し上げます。貴重な機会を設けて頂き、本当にありがとうございました。

かわの まき（京都第二赤十字病院）

大図研京都ワンディセミナー 「メディアドクター研究会 in 京都 テーマ:iPS細胞と臨床試験」参加報告

前田 貴代

2019年10月27日(日) 京都府立図書館（2階ナレッジベース）で開催された、大図研京都ワンディセミナー「メディアドクター研究会 in 京都 テーマ:iPS細胞と臨床試験」に参加させていただきました。簡単ですが、参加の報告をさせていただきます。

1. はじめに

メディアドクター研究会が、様々な場所、研修会などでセミナーを開催されているのを目にし、地元で参加できる機会があれば参加してみたいと思っていた矢先、近々大図研京都主催のセミナーがあり、大図研の会員でなくても参加可能ということを知り、参加させていただくことになりました。

メディアドクター研究会は医療に関するメディア報道のあり方を勉強する会で、医療記事の質向上を目的に様々な視点から記事を評価するメディアドクターという活動をされています。今回のセミナーもその活動のひとつで、セミナーの中で実際にメディアドクターを行うワークショップも含まれているということでした。

大学図書館員でもなく、医学系でもない、一般企業（図書館システムの会社）に勤務する私でも大丈夫かなと、少し不安な気持ちで参加させていただいたのですが、それがなんと！初心者でも楽しく参加できるセミナーでした。

2. 内容

最初に、メディアドクター研究会メンバーの佐藤正恵様より、「Googleと医療情報」と題して、「GoogleとYahoo!使いこなし術」についてお話がありました。中盤では同じくメデ

ィアドクター研究会メンバーの北澤京子様「医療健康報道を【評価】して情報の質を高める」と題して、医療記事の作られ方（プレスリリース）について、発表いただきました。

その後、1テーブル5、6人ごとに、6つのグループに分かれて、ワークショップが始まりました。

題材は「iPS細胞と臨床試験」について。新聞記事2点（記事A、記事B）コピー版を基に、プレスリリースを参考にしながら「メディアドクター指標 評価項目」（評価項目の書かれた用紙）について、評価記入していくというものでした。評価は満足（○）か、不満足（×）、言及の必要性がない（評価の対象外）と考える場合はNA（Not Applicable）の3種類から選びます。

◆資料：新聞記事2点

【記事A】平成30年11月10日（土）産経新聞 朝刊 1面

【記事B】平成30年7月30日（月）京都新聞 朝刊 1面

付属資料：京都大学 iPS細胞研究所発表のプレスリリースA、B

【プレスリリースA】2018年11月9日

【プレスリリースB】2018年7月30日

◆メディアドクター指標（Review Criteria of Media Doctor Japan ver4.0, 2018）評価項目

- ・利用可能性（Availability）
- ・新規性（Novelty）
- ・代替性（Alternatives）
- ・あおり・病気づくり（Disease mongering）
- ・科学的根拠（Evidence）
- ・効果の定量化（Quantification of Benefits）
- ・弊害（Harms）
- ・コスト（Cost）
- ・情報源と利益相反（Sources of Information/Conflict of Interest）
- ・見出しの適切性(Headline)

（メディアドクター研究会ウェブサイト（<http://mediadoctor.jp/>）より）

<ワークショップの流れ>

- 1 個人での評価実習
- 2 グループごとに評価内容をディスカッション
- 3 全体でグループごとに発表
- 4 まとめ

3. 感想

個人での評価実習では、プレスリリースA、Bを参考に、新聞記事2点を読むのですが、医療関係の記事を読むことに慣れてないので、内容を理解するのに時間がかかりました。個々のメディアドクター指標10個の評価項目について、満足（○）、不満足（×）、もしくは評価対象外（NA）を、記入していきましたが、考え込んでいる時間はなく、記事を読み解くことの難しさを実感しました。

個人の評価実習の後は、グループごとに評価内容のディスカッションを行いました。私のグループは6人で、ひとりずつ各評価項目について、なぜその評価にしたのかを理由を述べていくという方法を取りました。グループ全員が評価を発表した後、各評価項目についての

多数決でカウントした後、結果についてディスカッションを実施し、全グループの評価発表がありました。グループメンバーの方々の評価理由を聞いて、改めて自分が見落としていた点、また自分がきちんと読み取れていた点など知る事が出来ました。限られた時間なのに、しっかり論点を見つけ読み取られている方々の読解力に感心すると同時に、自分自身の読解力のなさに少し凹み、これではだめだと感じた瞬間でもありました。他のグループの発表からも新しい記事のとらえ方も学ぶことが出来ました。

今回の題材となった「iPS 細胞と臨床試験」は、iPS 細胞（人工多能性幹細胞）から作った神経細胞をパーキンソン病患者へ移植する再生医療の治験を京都大学が始めるという内容の記事でした。記事 A を読んだ時には、明るいニュースという印象を受けましたが、記事 B では「夢の治療法」となるわけではないといった慎重な姿勢を取っていたことから、書き方、表現の方法によって受け取った側の印象はかなり違って来るのだなと感じました。

メディアドクター指標の評価項目に沿ってひとつずつ評価していくことにより、記事の内容の読み解き方、見極め方などが、ほんの少しですが見えて来て、これを続けることの重要性を感じました。

ワークショップの時間中は、必死で頭をフル回転させ、あっという間に過ぎてしまいましたが、最後のまとめまで終わって、最初に自分の口から出た言葉が、「面白かった！またやってみよう」でした。集中して新聞を読み解き、指標にもとづいて評価するという作業は、ちょっとしたゲーム感覚もあって、終わった後には何とも言えない達成感がありました。このように限られた時間の中、集中して記事を読んで評価し、皆さんと考えを述べ合うメディアドクター研究会のワークショップ、参加したことのない方々に是非お勧めしたいです。

私たちのテーブルの中には、今回のプレスリリースの記事を担当された京都大学 iPS 細胞研究所の方も参加されていて、その方から直接記事の説明を聞いたことは、とてもラッキーでしたし、他のグループには、今回の評価対象となった記事発行元の新聞社の方もいらっしやって、とても贅沢なセミナーとなっていました。

最初にお話いただいた佐藤正恵様の「Google と Yahoo！使いこなし術」では、オプションの使い方、検索時に指定する便利なタグ等、まだまだ知らなかった情報を教えていただき、北澤京子様の医療記事の作られ方については、初めて接する医療系プレスリリースについてのご説明は、ワークショップでプレスリリースを読み解くのに助けになりました。最後にメディアドクター研究会幹事長の渡邊清高先生から、まとめのお話をいただいた際に、治験についてのご説明もしていただき、治験についても少し知識を得る事が出来ました。

はじめて参加させていただいた「大図研京都ワンディセミナー」と「メディアドクター研究会」では3時間という短い時間の中に、たくさんの内容が凝縮されていていながら、初心者にもわかりやすく進めてくださっていました。

セミナー終了後の懇親会でも、皆さまとの交流が持て、とても有意義な時間でした。これからも大図研京都の活動に参加させていただきたいと思ったと同時に、記事を正しく読み解く力をつけていきたいと強く感じました。

まえだ たかよ（株式会社ブレインテック 営業グループ）

会員名簿情報ご確認のお願い

先日、会費納入のお願いに併せ、「大学の図書館」に同封されておりました「会員名簿情報ご確認のお願い」につきまして、まだご回答いただいておりますが、まだご回答いただけておられない会員の方がいらっしゃいましたら、何卒ご回答くださいますようお願い申し上げます。

◇ 会費ご納入のお願い ◇

会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

2016/2017年度(2016年7月～2017年6月)より、大学図書館問題研究会会費は、すべての会員の皆さまに、直接大学図書館問題研究会事務局へご納入いただくこととなりました。

一括徴収方式に移行し、4年目となりますが、京都地域グループは年度継続の前に会費をご納入いただく前納があまり進んでいない状況でございます。ワンデイセミナーやグループ報は京都地域グループ費により開催・発行させていただいております。ご多忙のところ大変恐縮ですが、会費のご納入のほどよろしくお願いいたします。

会費は、¥7,000(大図研会費：¥5,000+京都地域グループ費：¥2,000)/年度です。

【振込先】

郵便局 00190-2-79769 大学図書館問題研究会

■銀行名 ゆうちょ銀行 ■金融機関コード 9900 ■店番 019
■預金種目 当座 ■店名 〇一九(ゼロイチキュー店) ■口座番号 0079769

ご不明な点は大学図書館問題研究会事務局(会費担当)(kaihi@daitoken.com)までご連絡ください。

※ 学生会員制度(試行)として、学生の方には特典をお渡ししております。

詳細は京都地域グループ Web サイトの「学生会員制度の試行について」をご覧ください。